

まえがき

本年報は、昭和63(1988)年度の第23号と、平成元(1989)年度の第24号の合併号である。したがって、購入作品、寄贈作品をはじめ、特別展その他の事業記録、資料など、いずれもこの両年度にかかわるものである。

この期間の活動のうち、特筆すべきは、当館開館30年を記念するさまざまな事業が行なわれたことである。国立西洋美術館は、フランス政府より寄贈返還を受けた松方コレクションを中核として、昭和34(1959)年4月1日付で設置され、同年6月10日に開館された。その30周年を記念して、平成元年6月9日、文化庁長官、松方家の方々、パリ、ルーヴル美術館館長をはじめ、各界の関係者を多数招いて、記念式典が挙行され、あわせて、松方コレクションと創設以来の収集の成果を示す特別展示がなされた。またこの機会に、『国立西洋美術館三十年史』も刊行された。

この30年にわたる歴史のあいだに、当美術館は、当初の松方コレクションの中心をなしている19世紀から20世紀初頭にかけてのフランス美術をいっそう充実させるとともに、作品収集においても展覧会活動においても、ルネッサンス以降の西洋美術の主要な流れや代表的芸術家たちにも視野を拡げ、日本における唯一の国立の西洋美術専門の美術館としての役割を果し得るよう努めて来た。昭和63年、平成元年の両年度においても、この基本的方針が貫かれていることは、本年報のさまざまな報告に見られる通りである。

それと同時に、従来から続けられて来た海外の美術館、専門家との協力関係がいっそう緊密になり、また、単に諸外国から作品や情報を受入れるだけでなく、積極的に国際的に意義ある活動に参画貢献するようになったことも、この両年度間の特色として見逃し得ない。そのことは、例えば海外の重要な展覧会に当館の所蔵作品を貸出したり、あるいは諸

外国からの調査依頼に協力する等の活動に表われているが、何よりも特徴的なのは、特別展の組織にあたって、日本国内のみならず海外の鑑賞者にとっても意味のあるような文字通り国際的配慮がなされ、また実際にその企画が実現したことであろう。パリのオルセー美術館と当館との緊密な協力によって組織された『ジャポニスム』展(昭和63年度)は、その最初の試みであり、事実この展覧会は、当館での開催に先立ってパリのグラン・パレで公開され、大きな反響を呼んだ。なおこの時の日本語版カタログは、第1回「美術展カタログ」コンクール・大阪1989による当該年度の最優秀作品賞を得ている。また、平成元年度に開催された『ドラクロワとフランス・ロマン主義』展も、当館担当者をはじめ日仏の専門家の協力によるもので、近くフランスのリール美術館において再公開される予定である。

すなわち、国立西洋美術館は、日本における西洋美術の収集、普及、研究の中心であるばかりではなく、国際的にもそれにふさわしい貢献、協力を期待されているのであり、事実、不十分ながら着実にその役割を果しつつあるのである。このような傾向は、今後ともいっそう顕著となって行くであろう。

なお、本年報で扱った両年度の時期における当館館長は、前川誠郎氏であった。本年報に見られるような多くの優れた業績を残された前川氏に対し、深甚なる敬意を表するものである。

平成4年5月
国立西洋美術館館長
高階秀爾